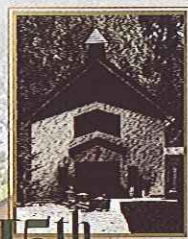


八ヶ岳中央高原キリスト教会 献堂

15

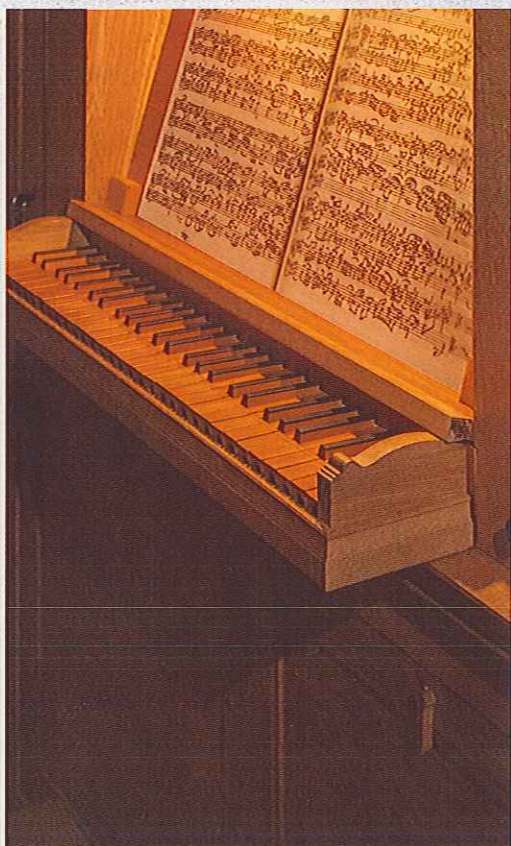
周年



15th Anniversary

レクチャーコンサート  
「礼拝とオルガン、その歴史」

～ルネサンス・バロック時代の教会音楽～



オルガンとその音楽は、教会の長い歴史の中で常に人々の歌声とともに在り、育まれてきました。今回は、中世からルネサンス、バロック時代の礼拝の概要、オルガンとその音楽が果たした役割について、カトリック教会の典礼書やルター派教会の教会規則書を手掛かりにお話しいたします。オルガンは当時の礼拝において伴奏楽器としてではなく、聖歌やコラールと交互に演奏する役割を担っていました。その演奏実践の例を、カトリック教会の単旋律聖歌やモテット、ドイツ・ルター派教会のコラールとともに聴きいただきます。

2018年9月17日(月)

14:30開場・15:00開演

入場無料先着80席まで(要予約) ご予約、お問い合わせ：八ヶ岳中央高原キリスト教会(小淵)090-9322-2224

主催：八ヶ岳中央高原キリスト教会





米沢 陽子  
(お話、オルガン)

東京芸術大学大学院博士後期課程(バロックオルガン専攻)修了、博士号(音楽)を取得。16-18世紀ドイツのオルガン音楽を中心に研究と演奏を行なう。オルガンを木田みな子、石田一子、酒井多賀志、宮本とも子、鈴木雅明、廣野嗣雄の各氏に、音楽学を大角欣矢氏に師事。文化庁芸術家在外派遣研修員として渡独、シュターデ・オルガン アカデミーにて研鑽。カトリック山手教会・日黒教会 オルガニスト、日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員、東京純心大学看護学部教授。



花井 哲郎  
(バス、アンサンブル・リーダー、オルガン)

古楽演奏家。「ヴォーカル・アンサンブル カペラ」音楽監督としてグレゴリオ聖歌とルネサンス宗教音楽の演奏を20年以上にわたって続ける。また古楽アンサンブル「コントラポント」のリーダーとしてバロック時代の宗教音楽演奏を行う。原村で「はらむら古楽祭」を開催、古楽の新しい楽しみ方を提唱する。合唱団フォンス・フロリスを始め、様々な古楽アンサンブルを指揮・指導。フォンス・フロリス古楽院院長、国立音楽大学講師。



佐藤 裕希恵  
(ソプラノ)

東京芸術大学声楽学部及び古楽科修士課程を卒業。卒業時にアカンサス賞受賞。パーゼル・スコラ・カントルムでバロック科修士課程、中世ルネサンス科修士課程を修了。その後別科にて中世鍵盤楽器及びオペラ声楽を学ぶ。国際古楽コンクール Canticum Gaudium(ボズナン、2013)第1位、国際古楽コンクール《山梨》第1位及び上原賞(山梨、2015)など数多く受賞。アンドレア・マルコン、アンサンブル ジル・パンショワなど著名な音楽家、アンサンブルと数多く共演。Sollazzo アンサンブル、デュオVox Poeticaメンバー。



富本 泰成  
(テノール)

東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。発声という運動をより科学的・解剖学的な視点から考えるために、様々なメソッドから学ぶ。Vocology in Practice の小久保よしあき氏、Estill Voice Training の稲幸恵氏、ヴォイトレ・マスター メソッドの Masayo Yamashita 氏に発声を師事。ヴォーカルアンサンブル歌譜喜・女声アンサンブル八重桜・男声アンサンブル八咫鳥、各リーダー。ヴォーカルアンサンブルカペラ、Salicus Kammerchor、各メンバー。



櫻井 元希  
(テノール)

広島大学教育学部第四類音楽文化系コース、東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。同大学院古楽科バロック声楽で修了。声楽を枝川一也、寺谷千枝子、櫻田亮の各氏に、バロック声楽を野々下由香里氏に、合唱指揮をアレクサンダー・ナジ氏に、指揮を今村能氏に、古楽演奏を花井哲郎氏に師事。Salicus Kammerchor 主宰。フォンス・フロリス古楽院講師。ヴォーカル・アンサンブル アラミレ、リーダー。男声アンサンブル 八咫鳥、The Cygnus Vocal Octet、ヴォーカル・アンサンブル カペラ、古楽アンサンブル コントラポント等に所属。

**今後の献堂 15周年記念行事**

10月27日(土):15時  
クラヴィコード演奏会  
宮本とも子

11月25日(日):10時30分  
音楽礼拝 ホルン  
宮田四郎

